

3. 石川中央地域 広域都市圏マスタープラン

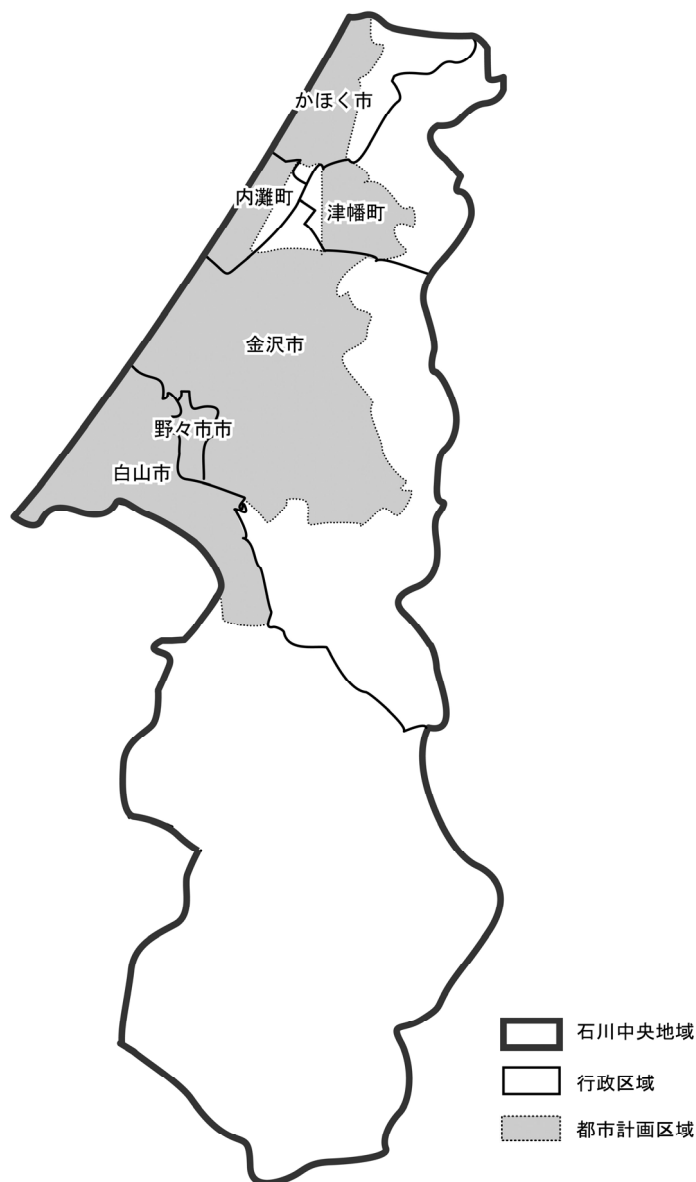
1) 地域の概況

(1) 地域の構成

石川中央地域は、金沢市、かほく市、白山市、野々市市、津幡町、内灘町の4市2町で構成され、全市町で都市計画区域が指定されている。

都市計画区域の範囲及び規模は、次の通りである。

都市計画区域名	市町名	範囲	面積
金沢都市計画区域	金沢市	行政区域の一部	22,325ha
	野々市市	行政区域の全域	1,356ha
	内灘町	行政区域の一部	1,306ha
白山都市計画区域	白山市	行政区域の一部	10,469ha
かほく都市計画区域	かほく市	行政区域の一部	3,476ha
津幡都市計画区域	津幡町	行政区域の一部	2,998ha



(2) 地域の概況

本地域は、石川県のほぼ中央に位置し、海岸線や白山、手取川をはじめとして優れた自然や豊かな資源に恵まれている。特に、白山ろくは白山国立公園や白山手取川ジオパークに指定されており、温泉郷・スキー場と併せて、本地域の観光・レクリエーション資源にもなっている。また、県都金沢市は加賀百万石の城下町であり、多くの観光客が訪れる観光都市であるとともに、歴史・伝統・文化の発信地として、また、北陸新幹線金沢開業に伴う様々な効果を今後も持続させ、石川県全域に波及させるための中心都市としての役割を担っている。

また、本地域では、北陸自動車道や金沢市と能登半島を結ぶのと里山海道が整備されているほか、北陸新幹線の整備により、三大都市圏や能登地域、富山県との交流・連携の拡大が期待されている。また、金沢外環状道路等の整備により、地域内交通のさらなる円滑化も期待されている。

本地域の人口は、平成27年現在で728,259人であり、過去20年間では人口が増加している。また、本地域は県内人口の約6割を占めており、65歳以上人口は24.2%と県全体の27.5%と比較すると高齢化の進展は低くなっている。なお、本都市圏を構成する4市2町において連携中枢都市圏を形成し、圏域としての課題や将来像の共有による一体的な地域の活性化を目指していることから、地域の結びつきはさらに強まっている。

(3) 地域の主要課題

本地域は、恵まれた自然環境に加え、その歴史的経緯から、城下町金沢市を中心に市街化が進んできた。しかし、モータリゼーションの進展に伴って、金沢市近郊に宅地化が急速に進み、宅地のスプロール化等がみられるとともに、郊外型大型店舗の進出により、中心商店街の活力低下や中心市街地の空洞化がみられる。

このため、長期的な人口減少や高齢化を見据え、まちなかや地域の拠点をはじめ、広域交通ネットワークや交通結節点などといった都市基盤の計画的な整備とともに、無秩序な市街地拡大の抑制を図るなど、適切な土地利用コントロールを図る必要がある。これまで、区域区分や用途地域、地区計画等の都市計画制度の運用やまちづくり条例の制定などにより各種土地利用コントロールの取り組みが進められてきたが、今後は立地適正化計画等による居住や都市機能の誘導施策と公共交通の維持・充実による、地域の実情に応じた集約型のまちづくりが求められている。

また、まちなかでの再開発やまちづくり団体などの地域主体の活動などによる中心市街地の活性化、空き家の活用やまちなか定住促進に向けた各種施策が展開されており、今後とも個性的で魅力あるまちづくりの推進が求められている。

さらに、国内外からの観光客に対しては、わかりやすい案内サインの整備や公共交通の確保・維持、歩行者・自転車にやさしいみちづくりなどが必要であり、それらの整備とあわせて、バリアフリーの環境整備や地域での見守り体制の充実など、高齢社会においても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、多様な主体の連携・協働による取り組みが求められている。

2) 地域づくりの基本理念

本地域には、城下町金沢に代表される歴史・伝統文化のほか、白山国立公園に指定されている白山ろくや手取川、美しい海岸線に代表される豊かな自然環境や観光資源が存在する。

今後は、それぞれの都市がこれら地域の特色を活かしつつ、連携中枢都市圏として広域的に連携しながら、北陸新幹線開業効果を持続・発展させ、住み良い魅力ある都市づくりを目指し、次の基本理念に基づき「交流と連携による歴史・文化・産業を活かした集約型のまちづくり」を進め、地域の活性化を図る。

(1) にぎわいと魅力あふれる持続可能なまちづくり

石川県における中枢都市圏として、充実した都市基盤の整備や近代的な都市空間としての都心軸の形成など、高次都市機能のさらなる充実を図る。

また、地域に根付いた歴史と伝統・文化を活かした個性的なまちづくりを進めるとともに、中心市街地における民間活力を活かした老朽ビル等の既存ストックの更新・活用等によるまちなかの再生を進めるとともに、建築物・屋外広告物等の規制・誘導や無電柱化などによる景観の保全・創出、歩行者や自転車が安心して快適に回遊できる都市空間づくりを進める。

(2) 広域交流を支える交通環境づくり

本地域は中能登地域、南加賀地域、富山県を結ぶ交通の結節点であり、北陸自動車道やのと里山海道の整備・充実をはじめ、北陸新幹線敦賀開業、金沢港の国際物流拠点化やクルーズ船の受け入れ強化などにより、広域交通体系の形成による広域交流を推進する。また、金沢外環状道路等の整備による都市間交流の促進に努めるとともに、鉄道・バスなどの公共交通の維持・充実や利便性の向上などにより、過度に自動車に頼らない円滑な交通環境の創出を図る。

また、社会基盤の耐震化や適切な維持管理による長寿命化を図るとともに、地震・津波、風水害・雪害、土砂災害及び火山災害等の自然災害並びに大規模火災及び原子力災害等に対し、ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策の強化を図る。

(3) 豊かな自然環境と地域の強みを活かした産業環境づくり

白山国立公園や白山手取川ジオパーク、手取川、海岸線等の豊かな自然環境や市街地周辺の緑地・農地等の保全及びレクリエーション等への活用、交流拠点づくりを推進するとともに、手取川扇状地、河北潟、砂丘地における農業振興を推進する。

また、充実した医療環境や交通環境、ものづくり産業の集積などの地域の強みを活かし、さらなる産業集積や地場産業の高度化を図るため、広域交通基盤の整備や産学官の連携を促進するとともに、金沢港の整備促進や周辺への企業誘致を進め、物流拠点および観光拠点としての魅力を高める。

(4) 成熟社会に対応した安全・安心で集約型のまちづくり

まちなかの都市機能の再生・充実、地域に根付いた歴史や伝統・文化を活かした魅力ある居住環境整備を進めるとともに、各種支援制度を整備し、空き家等の有効活用によるまちなか定住の促進を図る。

また、生活に必要な機能等の多様な都市機能をまちなかや地域の拠点に集約し、それらをバスなどの公共交通で結ぶとともに、密集市街地等については既存の生活環境を改善するなど、雪や災害に強く快適で魅力ある移住・定住環境を整備する。

(5) 多様な主体による地域主体のまちづくり

住民やボランティア、学生やNPO等の多様な主体が一体となり、郷土への愛着や誇りを育むとともに、空き家の活用やコミュニティの持続・再生などの地域の課題解決や価値向上に向け、行政との連携や多面的できめ細やかな支援により、地域主体のまちづくりを進める。

3) 地域構造の基本方針

石川中央地域は、兼六園、金沢城公園、伝統的な街並みや様々な伝統工芸などの藩政期以来の歴史・文化資源、白山などの豊かな自然の保存・継承及びさらなる活用により、本物を提供する質の高い観光地づくりを推進する。

また、金沢港の国際物流拠点化やクルーズ船の受け入れ強化、「ダブルラダー輝きの美知(みち)」構想の推進などによる交通基盤の機能強化により、交流人口の拡大及び産業の振興を図る。

(1) 拠点となる都市

① 金沢

金沢では、石川県の中心都市として高次都市機能を備えた中核都市の形成を図る。

特に、金沢港から金沢駅を経て金沢市片町に至る一帯を本地域の都市機能集積ゾーンとして位置付け、再開発事業等の活用により空き家・空きビルといった既存ストックの利活用と都市機能の集積・高度化を図るとともに、中心市街地の活性化とまちなか定住の促進を図る。

② 白山

白山（松任、鶴来、美川）では、金沢外環状道路海側幹線、加賀海浜産業道路などの利用により、既存工業団地周辺での産業集積を図り、本地域における産業の拠点を目指すとともに、都市機能の集積による中心市街地の活性化と良好な居住環境の形成を図る。

また、白山ろくは、豊かな自然や歴史・伝統・文化を活かした地域資源の保全・活用により交流拠点の形成を図る。

③ 野々市

野々市では、今後も一定の人口増加が見込まれるため、受け皿整備を図るとともに、将来的な人口減少や高齢化を見据え、商業業務機能をはじめ、都市機能のまちなか集積による利便性の高い都市拠点の形成を図る。

④ かほく

かほく（七塚、宇ノ気、高松）では、豊かな自然資源の活用を図りながら良好な住宅地を形成するとともに、日常生活に必要な都市機能の充実により、暮らしやすい居住環境の形成を図る。また、交流人口の拡大に向けて、地域文化の継承・創造と合わせたふるさと交流拠点の形成を図る。

⑤ 津幡

津幡では、歴史や自然をはじめとした地域資源を活かし、良好な住宅地と日常生活に必要な都市機能の充実による定住促進を図るとともに、交流人口の拡大に向けて、地域資源を活かした快適なふるさと交流拠点の形成を図る。

⑥ 内灘

内灘では、恵まれた地域資源と地理的な特性を活かし、良好な住宅地と日常生活に必要な都市機能の充実による定住促進を図るとともに、交流ネットワークの強化による交流拠点の形成を図る。

(2) 主に都市計画区域内における土地利用

① 市街地ゾーン

農業的土地利用との調和を図りながら、多様な都市機能や居住の誘導により適切な密度を維持することで、機能的かつ利便性が高く、誰もが安心して暮らせる市街地を形成する。

また、都市基盤の計画的な整備及び適切な維持管理を進めるとともに、空き地等の低未利用地や空き家・空きビル等の既存ストックの有効活用を図りながら、住居、商業、工業、緑地等の土地利用を騒音などに配慮しつつ計画的に配置・誘導し、良好な都市環境を形成する。

さらに、金沢駅をはじめとした鉄道駅の機能充実や交通結節点の機能強化を図り、交通の利便性の高い市街地を形成する。

② 農業ゾーン

手取川扇状地や河北潟周辺の田園地域をはじめ、都市ゾーンにおける市街地周辺の田園地域では、重要な田園景観や眺望景観の維持・保全を図る。また、既存集落では日常生活に必要な都市機能の確保・維持のほか、公共交通などにより市街地とのアクセスを確保し、集落の維持・活性化を図る。

幹線道路の沿道においては、適切な土地利用コントロールにより、まちなかや地域の拠点への機能集積を推進する。

③ 自然保全ゾーン

白山国立公園や白山手取川ジオパーク、医王山県立自然公園、獅子吼・手取県立自然公園、一里野県立自然公園等に指定されている加越山地や津幡森本丘陵地、医王山山麓などの自然環境を保全・活用するとともに、自然災害の防止や安全確保の機能を維持する。

日本海に面する海岸線は、奥能登、中能登、南加賀地域を結んでいるほか、海岸線の保安林は防風・防潮機能と併せ、レクリエーションの場として活用されており、一体的な環境保全に努める。

(3) 地域の拠点

① 産業拠点

北部工業団地などが立地する白山インターチェンジ周辺や金沢テクノパークなどが立地する金沢森本インターチェンジ周辺をはじめとする工業集積地を産業拠点に位置づけ、アクセス環境や周辺環境の整備・維持、企業誘致を推進する。

また、金沢港周辺は、国際競争力の向上や流通拠点基地としての充実及び企業誘致を推進するとともに、クルーズ船の受け入れに向けた港湾整備及び市街地とのアクセス環境の改善を進め、工業及び観光の両面から産業拠点として機能強化を図る。

② レクリエーション拠点

金沢城公園、西部緑地公園、奥卯辰山健民公園、手取公園、健民海浜公園、松任海浜公園、石川県森林公園等の公園緑地はレクリエーション拠点として位置付け、地域住民の憩いの場、交流の場として整備・充実し、適切な維持管理に努めるほか、防災拠点としての活用を図る。

(4) 連携軸

① 広域連携軸

北陸自動車道やのと里山海道、金沢福光連絡道路、北陸新幹線等の利用により、三大都市圏及び富山県、奥能登、中能登、南加賀地域との広域的な連携を強化する。

② 都市連携軸

一般国道8号、一般国道157号、一般国道159号、一般国道359号、一般国道360号、一般国道471号、金沢外環状道路、加賀産業開発道路、加賀海浜産業道路等の幹線道路の利用により、本地域内の各拠点間の交流・連携を強化し、地域の一体性を高める。

また、地域間を結ぶ自転車道の整備・充実によりさらなる交流の拡大を図る。

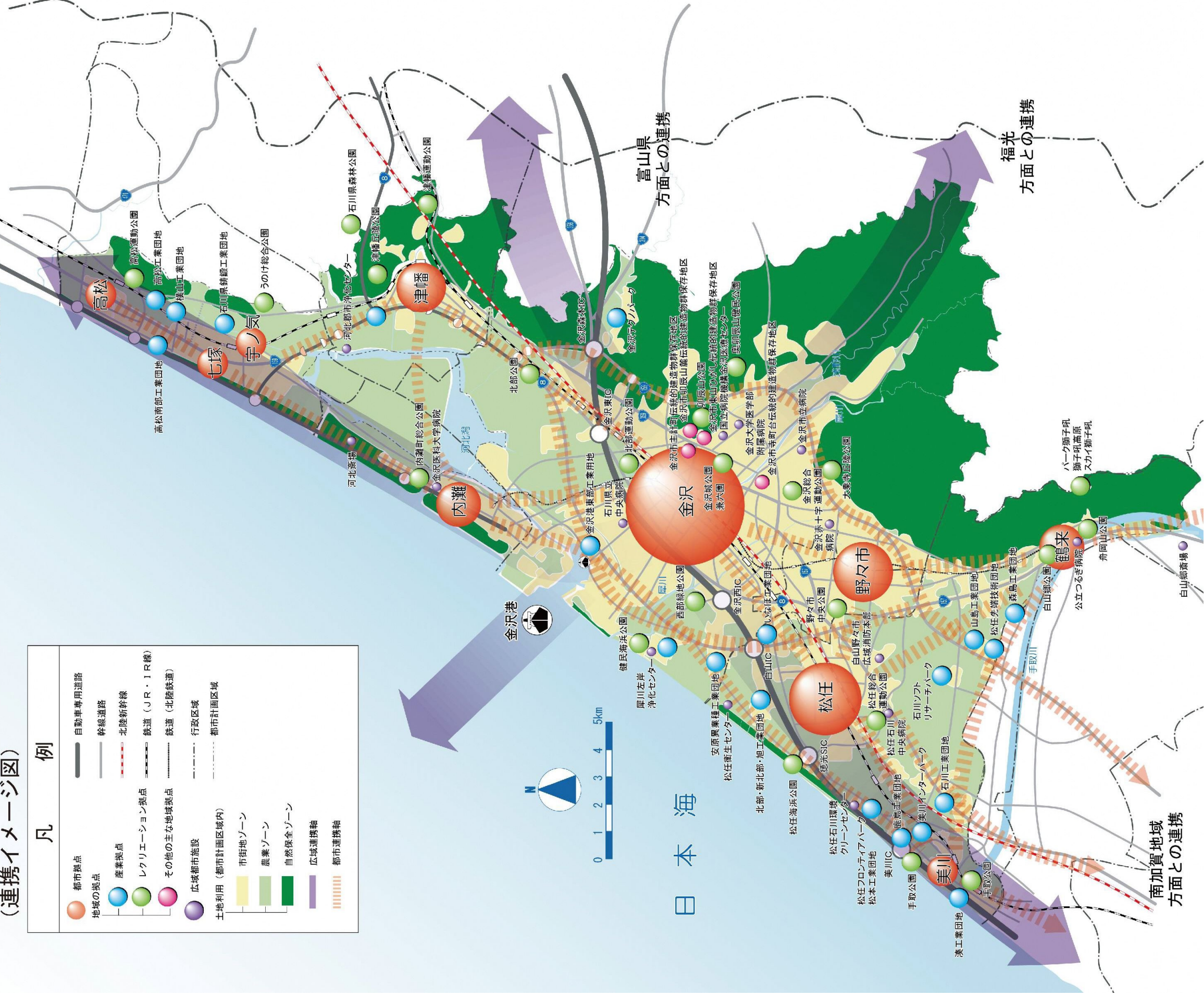
(5) 広域都市施設

ごみ処理施設やし尿処理施設、消防、病院などの広域的な都市施設は、適切な配置を行い、連携中枢都市圏としての連携強化を図るとともに、施設の機能更新や維持管理により、地域住民の生活の安全性や快適性を確保する。

石川中央地域 広域都市圏マスタープラン附图 (連携イメージ図)

凡例	
● 都市拠点	— 自動車専用道路
● 地域の拠点	— 幹線道路
● 産業拠点	— 北陸新幹線
● レクリエーション拠点	— 鉄道 (JR・IR線)
● その他の主な地域拠点	— 鉄道 (北陸鉄道)
● 広域都市施設	— 行政区域
— 土地利用 (都市計画区域内)	— 都市計画区域
— 市街地ゾーン	— 市街地ゾーン
— 農業ゾーン	— 農業ゾーン
— 自然保全ゾーン	— 自然保全ゾーン
— 広域連携軸	— 広域連携軸
— 都市連携軸	— 都市連携軸

奥能登地域、中能登地域
方面との連携



南加賀地域
方面との連携